

営農技術情報

－畑作（秋まき小麦②）－

平成31年 4月26日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524

JA道北なよろ TEL01655-3-2521

JA道北なよろ営農センター TEL01654-3-4307

～今後の栽培管理について～

本年は雪腐病の発生が少なく、越冬後の生育も概ね良好です。

良品多収を目指すためにも、生育状況に応じた施肥管理と雑草対策を行いましょ！

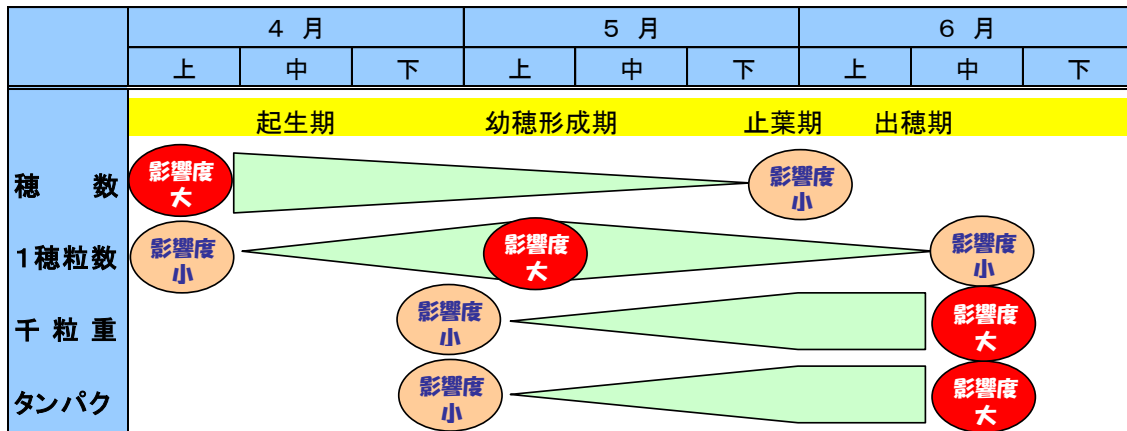
1 幼穂形成期(5月中旬)の追肥について

幼穂形成期の追肥は、1穂粒数の増加に寄与しますが（図1）、過度に効くと急激に草丈が伸長したり、過繁茂により倒伏のリスクが高まります。

表1を参考に追肥量を加減して下さい。

雪上もしくは4月中旬までに追肥を行ったほ場で、5月中旬までに葉色が淡くなっている場合は、早期に追肥を行いましょ。4月下旬以降に追肥を行ったほ場では、葉色発現までに時間を要しますので、次回は5月中旬～下旬をめどに葉色および生育状況を確認した上で、追肥の判断を行って下さい。

【図1 生育時期による窒素追肥の効果】



【表1 幼穂形成期（5月中旬頃）の生育に応じた窒素追肥量の目安】

幼穂形成期の茎数	窒素追肥量の目安	備考
1,500本/㎡以上	2kg/10a	葉色が濃い場合は追肥を遅らせる。
1,200～1,500本/㎡	2～4kg/10a	生育量に応じて2～4kg/10aの範囲で追肥を行う。 葉色が濃い場合は追肥を遅らせる
1,200本以下	4～6kg/10a	葉色が濃い場合は、少なめとする。

2 雑草防除

既に雑草の発生が見られます。雑草の生育が進むと除草剤の効果が低下します。

また、防除通路や欠株となった箇所では雑草が繁茂しやすくなります。

雑草の種類に応じて薬剤を選択するとともに、使用時期を遵守して、適切に処理しましょう。

【表2 秋まき小麦の除草剤例 H31. 4. 25 現在】

除草剤名	対象雑草	使用時期	10a 使用量	回数
エコパートフロアブル	シロザ タデ類 ハコベ	止葉抽出前まで (雑草発生始) (収穫45日前まで)	50～75ml	2
MCP ソーダ塩	シロザ タデ類 ハコベ ナズナ スカシタゴボウ	小麦の幼穂形成期 (収穫45日前まで)	200～300g	1
バサグラン液剤			100～150ml	1
ハーモニー75DF水和剤			7.5～10g	1

- 【注意事項】
- ・エコパートフロアブル：展着剤は加用しない。
 - ・MCP ソーダ塩：好天日（20℃以上）に散布する。
 - ・バサグラン液剤：好天の続く時期に散布する。
 - ・ハーモニー75DF：使用後は器具類を専用の洗浄剤で洗う。

3 病害防除

①赤さび病

- ・高温、乾燥条件が続くと発病しやすくなります。
- ・例年、赤かび病と同時に防除することで十分に抑えられますが、早期（5月中旬頃）から発生するとまん延するおそれがありますので、発生が見られる場合は防除を実施して下さい。

【表3 眼紋病の防除薬剤例 H31. 4. 25 現在】

薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数
アミスター20フロアブル	2,000～3,000倍	収穫7日前まで	3回以内

※DMI剤（「シルバキュア」、「リベロ」等）も登録がありますが、赤かび病の防除で使用するため、連用としないようにして下さい。

①眼紋病

- ・連作ほ場、短期輪作ほ場では発生しやすくなります。
- ・連作や過去に発生が見られたほ場では、幼穂形成期頃に防除を実施しましょう。

【表4 眼紋病の防除薬剤例 H31. 4. 25 現在】

薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数
カンタスドライフロアブル	1,500倍	収穫45日前まで	2回以内